

Creating universal language

英語班：秋津川 碧 山口 果恵

要約

本研究の目的は、コミュニケーションにおける言語の壁をなくすことだ。調査によって、言語の普及には価値観が関係しているということがわかった。従って本研究では、世界共通言語を作ることは難しく非現実的だということが結論付けられた。

Abstract

Our argument is if we are able to create a universal language which can be used by anyone in the world, we can communicate with each other more easily and that will be a great benefit in this globalized society. We researched why Esperanto, which was created about 30 years ago and used in certain areas, was not able to become the universal language, and considered how we can succeed creating a universal language. What we found is that creating a new language is extremely difficult because every language is under the influence of the life and culture of people who use it and it is impossible to create a language without considering those influences. Therefore, we conclude that what we need is not a universal language, but we need to utilize some of the existing languages and adapt them to our societies.

1. 序論

国際交流において言語の違いは大きな障害となる。言語の壁を無くすことでお互いの独自の文化を尊重しつつ使用言語の異なる人々とのコミュニケーションをより活発にすることができるのではないかと考えた。

私たちは言語の壁をなくし、外国の人とのコミュニケーションを簡単にするために、世界共通言語の壁を無くす方法として世界共通言語を新たに作れないかという疑問を抱いた。

そこで30年ほど前に世界共通言語として作られたエスペラント語と現在非常に多くの国で使われている英語から世界的に普及する言語の特徴を調べた。

しかし結果として世界共通言語をつくることは不可能ということがわかった。

2. 研究手法

エスペラント語が普及しなかった原因をもとに世界共通言語についての問題点を明らかにした。

1. エスペラント語は人工的に作られた言語であるため歴史がなく独自の文化を持たなかったこと。言語は文化と共に浸透する価値観によって発達するため、文化を持たない言語は人々の暮らしに定着しづらい。
2. 特定の人々にのみ使いやすい言語であったこと。
エスペラント語はヨーロッパの言語をもとにつくられアルファベットを用いる。そのためヨーロッパ・英語圏の人々にのみ親しみやすいものとなった。
3. 習得後活用できる環境が大変少ないこと。
既存の使用者の多い言語に比べ話者や国際交流で活用できる機会が少ないため習得することに対する利益が少ない。
4. エスペラント語を学習することのできる教育の現場が少ない。
英語は義務教育にも組み込まれており多くの英会話教室等があるのに対しエスペラント語を学習することのできる場所は非常に少ない

3. 結果

言語を世界的に普及させるために必要な条件として

1. 言語の普及とともに共通の価値観に統一されること。
2. 既存の言語をもとにつくるのではなく完全に新しく、どのような言語を母国語とする人にも平等であること。
3. 習得後、国際交流や国を超えたビジネスなど様々な場面で活用する機会があること。
4. だれでもどこでも気軽に学ぶことのできる環境が整っていること。

4. 考察

これらの特徴をもつ言語を世界共通言語として普及させるとした場合、本来国際的な異文化コミュニケーションの活発化を目指しての世界共通言語の作成だったにも関わらず、価値観の統一により各地の独自の文化に悪影響を及ぼす可能性がある。また、新たな言語を完璧に作成し世界的に普及させるためことは非常に時間がかかり成功する確率が低いと考えられる。これより、世界共通言語を新たにつくるのではなく現在最も世界各地に普及している言語のひとつである英語の使用方法を改め、使うことが最適ではないかと考えた。この際、英語の発展した歴史的背景や英語圏の文化・価値観を重視することは世界共通言語と同様に各地の文化に悪影響を及ぼしかねない。そのため英語を文化によって生まれた歴史的なものではなくコミュニケーションを円滑にする道具の一つとしての使い方を模索していく必要があると考えた。

5. 結論

国際的な交流を活発にするために世界共通言語をつくることは、言語の特性などの理由から困難であり既存の言語を利用する方法が最も効率的かつ現実的である。既存の言語を活用する方法として英語圏以外の人々が英語を使用する際に、英語圏の歴史・文化・風土などが表現の妨げにならない方法を確立する必要がある。

6. 参考文献

一般財団法人 日本エスペラント協会 <https://www.jei.or.jp/>

田中 克彦 (2007). 『エスペラントー異端の言語』 岩波新書

日本経済新聞 (2000). 「顧客の信用方法公開」. 東京本紙 3 月 20 日朝刊